

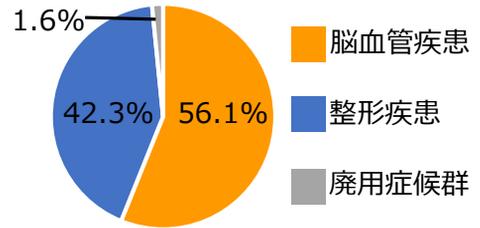
ウェルウォーク通信

日頃はウェルウォークをご活用頂きまして誠にありがとうございます。第13回目の今回は、第二成田記念病院様のご紹介をさせていただきます。1日の平均練習患者数が約3-4名と積極的にWWをご活用頂いており、どのように適応患者様を選定されているのかをお伺いしました。

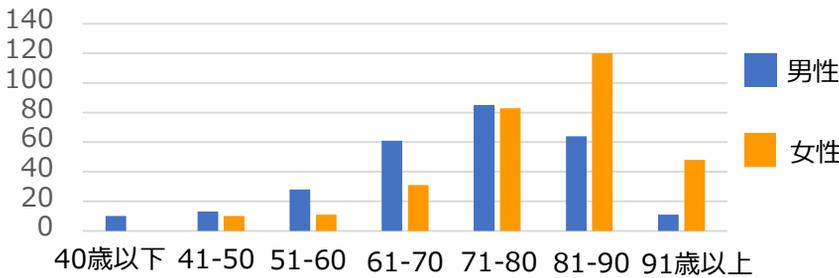
●基本情報【第二成田記念病院】

回復期リハビリテーション病棟
 病床数 96床
 平均在院日数 約61日
 療法士数 71名 (PT35,OT20,ST16)
 リハ実施単位数 17.9単位/日(スタッフ1人あたり)

●疾患内訳 (患者数=576)



●性別/年齢別入院患者数 (患者数=576)



院内WW研修会の様子

入院患者の疾患内訳は脳血管疾患が約56%と最も多く、71-90歳の方が多いのが特徴です (2019年度)

●WW運用紹介

導入期間	平均使用患者数	平均練習週数	WW練習単位数	WW操作可能人数
2年5ヶ月	約3-4名/日	約6週	2単位/日・人	10名

●適応患者の選定基準

〈WWリーダーPT 内山恵介先生/鈴木章仁先生のコメント〉

当院では、WW導入当初より藤田医科大学の平野哲医師が書かれた文献^{*1}を参照し、選定基準を設定していました。しかし、より多くの患者様にWWを実施できるのではないかと考え、選定基準を変更しました。中には、実用的な歩行動作の獲得までが困難であると思われる方も対象としています。免荷機能やFB機能を用いることで介助者の負担が軽減し、平地での練習よりも活動量が確保できています。早期に開始した方は座位保持が安定するまでの期間が早い印象です。また、体幹伸展保持や重心移動等を反復して行えるため、歩行だけでなく移乗動作へも転移しやすいことを報告しています。^{*2}

選定基準変更前

1. 脳卒中片麻痺患者
2. SIAS-m L/E 計6点以下
3. SIAS垂直性2点以上
4. 認知/高次脳機能が保たれている
5. KAFO使用者



選定基準変更後

- 1 . 疾患は問わない
- 2-4. 制限なし
- 5 . KAFO使用者+AFO移行期の方

以下の場合には患者ごとに検討

- ①四肢麻痺 (両側装具装着者) の方
片側AFOがoffできた際に実施を検討。また、リハ医と相談の上でAFOと併用してWW練習を実施する場合もあり
- ②重度の高次脳機能障害を呈している方
FBを用いた練習が成立しない場合は中止

* 1 Effectiveness of Gait Exercise Assist Robot (GEAR) for stroke patients with hemiplegia . WW通信第3号を参照。

* 2 鈴木章仁先生が愛知県理学療法学会誌に「ウェルウォークWW-1000による歩行練習が移乗動作に及ぼす効果」を発表。WW通信第11号を参照。